

ニューヨーク シンフォニック・アンサンブル

共演：日立交響楽団



指揮 高原 守



モーツァルト：交響曲第41番八長調「ジュピター」K.551

ワーグナー：ニュールンベルグのマイスージンガー第1幕前奏曲 ほか（曲目は変更になる場合がございます）

7/15(土) 午後2時

日立シビックセンター音楽ホール

全席指定 2,500円（団体割引は10枚以上1割引）

- 主催：日立市・(財)日立市科学文化情報財団
- 特別協賛：(株)日立製作所
- 協力：全日空・全日空ホテルズ
- 後援：アメリカ大使館・日立市教育委員会・NHK水戸放送局
- 制作：(財)NHKサービスセンター
- プレイガイド：日立市民会館・多賀市民会館・東海文化センター・高萩市文化会館・
パーティホール（常陸太田市民交流センター）
磯原駅市民サービスセンター・日立シビックセンター（地下1階）
- ベビーシッター：7月1日(土)までに日立シビックセンターに直接または電話にてお申込下さい。
(料金は1人600円)

チケット予約・お問い合わせ：日立シビックセンター ☎0294-24-7711 (10:00~18:00)

チケット
4/29(土)発売

管弦楽の生演奏を聴ける場所といえば、概ねの方がコンサートホールを思いうかべるでしょう。

確かに外部からの雑音がなく、楽器の音がほどよく響き、室温が快適に保たれているコンサートホールは、音楽を聴くのに最適と言えます。

ところが、音楽の歴史をひもとくと、必ずしもこのような場所ではばかり演奏が行われていたのではないことに気がつきます。

いえいえ、それどころかコンサートホールというものは、たくさんの人が同時に1つの演奏を楽しむために発明されたもので、もともと音楽は、室内や教会、庭園、集会場など、あらゆる場所にあふれていたのです。

現在、ニューヨークにこのような音楽を復活させる指揮者がいます。彼は、故レナード・バーンスタインのもとで腕を磨き、1976年ニューヨークでデビューしました。1979年からニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの音楽監督となり、既成の概念にとらわれないユニークな活動を展開しています。

島根県出雲大社での奉納演奏、広島県巖島神社での洋上コンサート、JR東京駅での駅コン、明治神宮での演奏の他、ビール工場、能楽堂、格納庫など、楽団員が入れるスペースがあれば、どこでも美しい音楽を鳴り響かせてしまいます。

本来、音楽がもっていた自由な発想を現在に再現させることで、彼らが培い、取得してきたものが、コンサートホールでどのように生きてくるのか、姿勢を正して耳を傾けたいものです。



きっと、もっと、すてきな夢を咲かせます。

人間らしさをキーワードに、いま私たちの生活や社会には、本当の豊かさやゆとりが求められています。

日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて、そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ、豊かな実りをお届けします。

Interface

株式会社 日立製作所